

令和6年度 北陸学院大学と金沢市との連携事業（主なもの）

連携項目	事業名	事業目的	(北陸学院大学)	(金沢市)
教育や人材の育成、交流	若手保育者フォローアップ研修事業	若手保育者に対し、専門知識を学ぶ講座や悩みごとの相談、受講者同士の交流を通して、業務への不安・悩みの軽減、モチベーションの維持を図ることで、離職の防止につなげる。	教育学部 幼児教育学科	こども未来局 幼児教育センター (資料2)
	城北児童会館伝承遊び継承事業	伝統遊具（竹とんぼ、けん玉、こま回し等）の製作・遊びを通して子どもたちに伝承遊びを親しんでもらうとともに、集中力や探求心の育成を図り、製作の楽しさ、それを使って遊ぶ喜びを体験してもらう。	教育学部 幼児教育学科	こども未来局 子育て支援課 (資料3)
	学生の協力による「放課後子供教室」充実事業	子供が喜ぶ企画の立案や、子供と触れ合う機会を提供することで、学生の貴重な実習の機会とすることに加え、学生の企画や運営を参考にすることで、公民館において地域住民等が講師となって行う「放課後子供教室」事業の充実にもつなげる。	教育学部 初等中等教育学科	教育委員会 生涯学習課 (資料4)
	子ども読書推進プラン実践事業	学生が企画するおはなしと遊びの会を実施し、「金沢子ども読書推進プラン2019（第4次）」が示す社会全体での子どもの読書活動推進につなげる。	教育学部 幼児教育学科	教育委員会 図書館総務課 (資料5)
	【R6年度新規事業】 大学連携学生定着促進事業	学生が、比較的若い社会人から、県外と比べた住環境や子育てなど市内定住の魅力、市内に移住・定住した考えや経験等を聴き、自身の将来のキャリアの参考にする交流会を実施することで、卒業後の市内定着を促進する。	教学・学生支援センター	都市政策局 地域力再生課 (資料6)
学生のまち推進	学生のまち推進プロジェクト	学生と市民との相互交流を促進し、学生とまちとの関係を深め、賑わいと活力を創出する。	地域教育開発センター	市民局 市民協働推進課 (資料7)
食文化の振興	金沢のヘルシーお魚レシピ開発事業	家庭での魚食普及に向け、健康面に着目したレシピや簡単調理レシピを開発し、パンフレットやHP等で情報発信を行う。	健康科学部 栄養学科	農林水産局 農業水産振興課 (資料8)
	エコ・スイーツ発信事業	家庭で捨てられがちな食材を活用したエコ・スイーツレシピコンテスト（令和4、5年度実施）の未受賞作品レシピについて、学生目線でよりおいしく、簡単に調理しやすいものにアレンジし、レシピ動画をSNS等で発信することで、市民のごみ減量意識の向上を図る。	健康科学部 栄養学科	環境局 ごみ減量推進課 (資料9)
その他	金沢マラソンにおける相互協力	金沢マラソンにおいて、ボランティア活動で学生の力を活かすほか、障害者ランナーの参加にかかる特徴やニーズを把握し、次回大会の改善策の提言をいただく。	人間総合学部 社会学科	文化スポーツ局 金沢マラソン推進課 (資料10)

## 若手保育者フォローアップ研修事業

### 北陸学院大学「みっしょん まな VIVA」 子どもの力を引き出す『見守る』保育実践について学ぼう

標題の件につき、以下の通り、ご報告をいたします。

- I. 研修会日時：2024年10月26日（土）13：00～受付開始 13：30～15：00
- II. 研修講師：北陸学院大学教育学部 幼児教育学科教授 ポーター倫子氏
- III. 会場：教育プラザ富樫 131 研修室（1号館 3階）
- IV. 参加人数：北陸学院大学卒業生（1名）、その他大学卒業生（12名） 計13名
- V. 研修会方法：対面にて実施
- VI. 研修会内容：※参加者には写真掲載の許可を口頭で頂きました。

- ① 挨拶・研修趣旨説明
- ② 講師紹介
- ③ 講義・ディスカッション
- ④ 質疑応答・まとめ
- ⑤ 挨拶・参加者アンケート入力

#### Ⅶ. 研修について 感想等

##### (1) 担当者による所見

##### 【研修講師：ポーター倫子先生 より】

今回、「見守るアプローチ」をテーマにした初めての研修を実施いたしました。このアプローチは、保育者の間接的な援助として近年注目されている概念ですが、多くの場合、無意識にまたは自明のものとして実践されています。そこで、研修を通してこのテーマを意識的に考える機会とし、保育力の向上につながればとの願いで実施いたしました。

参加者の意見から、既に保育の中で「見守る」ことを心がけた実践が行われていることが確認できましたが、どこまで、どのように見守るべきかについては、保育者としての観察力や子どもを捉える視点がしっかりと培われていることが重要であると再認識しました。また、外国の保育との違いについても話題に触れるように努めましたので、今後、広い視野で保育を考えるきっかけとなれば幸いです。



## (2) 受講者の感想

### 【参加者の意見: アンケートより抜粋】

#### ◎今回のテーマ「見守り」について

- ・見守りというのは大事であるとは思っていたが、自分が本当に見守れているのか振り返る機会になった。
- ・つつい子ども同士の問題に介入してしまいがちだが見守る保育の大切さに気づいた。
- ・自分の保育を先輩方から学ぶことが常だったが、経験年数が近い保育者との話し合いによって共に考えていくことの大切さにも気づくことができた
- ・今後の保育でも自覚の上で見守っていこうと思った
- ・見守り保育の大切さがより深く思えました。子どもたちの成長を長い目で見ていくような保育をしていきたいと思います。
- ・見守る保育は大事だが、自分を守ることも大事であることを言われて、少し心が楽になりました。
- ・「見守る」の本質と理解がもっと必要だと感じた。
- ・他の先生方の話を聞いて自分も見守る保育が少しはできているのではないかと安心しました。
- ・見守る保育を実践していきたいと感じました。
- ・普段の保育の中で見守る保育を自分はできているのか不安なところもあったけど、見守る保育は5年を過ぎてからできてくるというお話しや、他の保育者の方と話し合った時に自分と同じような関わり方や見守り方をしているのを見て自信もつきました
- ・見守りの大切さを知った
- ・どのような見守りが正しいのか分からずにいたが、いろんな見守りがあるのだと感じた
- ・見守るといいことを、自分もできていたんだと感じた。



#### ◎研修の学び・感想

- ・最小限の手助けで達成感を得て、次にチャレンジできるようにつなげるというのが大切だと思った。
- ・子どもたちを信じて見守ったり、子どもたちの自立のために援助を最小限に行うなど見守り保育をすることの大切さを学べて良かった。
- ・自分の保育を振り返る良い機会になったと感じています。見守ることにも、その意図や方法、タイミングなど様々なポイントがあり、それらを理解した上での関わりが重要になると分かりました。先輩方の保育や研修から学ぶことにくわえて、自分の保育とはどのようなものなのかを考えながら日々の保育に取り組んでいきたいと思っています。
- ・海外視点の日本の保育を知り、改めて自分たちの保育の良さを知るきっかけとなった
- ・自分の保育を見直して見守る保育を取り入れて行きたいと思いました。

・この半年間で、色々な場面に出会って、その場での解決ができたものと、できなかったもの、本当にこれであっているのかと、色々悩んだことがあったのですが、今回の話を聞いて、保育に対する考え方が少し楽になりました。ありがとうございました。

・研修を開いていただき、ありがとうございました。

・見守る保育をするには子どもと保育者と信頼関係が重要であり、日頃の保育から信頼関係を積み重ねていきたいと思いました。

・今回、見守る保育を学び、自分の保育を見つめ直すきっかけになりました。また、園でも実践していきたいと感じました。

・海外での把握の仕方をもう少し聞きたいと感じた

・今回の研修を受けて改めて見守りの大切さを知れて良かった。特に見守りをしていく中で子ども同士で解決しようとする姿が見られるようになってくのを見て考えさせられるところがあった

・見守る保育にはリスクもあるということは初めて知ったので気をつけながら保育していきたいと思いました。

自分も意識してない間に、色々なところで見守ることが出来ているんだなと実感しました。他園の先生の話も聞けて良かった。

## VIII. アンケート結果 回答数(13名)

### ●【研修会へ感想】【研修会に参加されての満足度】

研修会に対して

・とても満足している 6名      ・満足している 7名

### ●【今後、研修会や講座で取り上げてほしい(関心のある事)テーマなどありましたら教えてください。】

・不適切保育と見守る保育の境目      ・話がうまく伝わらない子への保育方法

・自然物を用いた保育やドキュメンテーションのまとめ方に興味があります。

・海外の保育 (2名)      ・子ども会議について

・障害児、気になる子どもへの関わり方 (4名)      ・子どもに対しての言葉かけ

・園と家庭の連携について      ・なし





●【開催時期・方法・参加のきっかけについて】

1ー①研修会開催時期はいつ頃がよろしいですか？【曜日】

- ・平日 (11名) ・土曜 (1名) ・土日及び休日 (1名)

1ー②研修会開催時期はいつ頃がよろしいですか？【時期】(季節、具体的に就職してどれくらいの時期など)

- ・いつでも (1名) ・今くらい(10月下旬)(1名) ・冬 (1名) ・夏 (3名)
- ・就職してから半年 (2名) ・春 (2名) ・来年度の春から夏 (1名) ・秋 (2名)

1ー③若手フォローアップ研修を知ったきっかけ

- ・幼児教育センターから届いたチラシ、上司からの紹介、保育園から教えてもらった (12名)
- ・北陸学院大学からのメール連絡 (1名)

● 同窓生または同窓生以外の保育者の方々も集い研修や保育を語り合う場についてどのように思われますか。

[自由記述]

- ・いいと思う ・他の園の話聞く機会ができてうれしい
- ・なつかしく心強く感じる。
- ・楽しそうだと思う、ぜひ参加してみたい
- ・自分にはない意見を聞いてよかったです。
- ・色々な話を聞くことができるのでいいと思います。
- ・とてもためになる
- ・貴重な機会で、ぜひ参加したいと思います。
- ・様々な環境から集うことで、学びも深まると思います。
- ・話し合うきっかけになって良いと思います
- ・色々な話が聞ける場
- ・いろんな園のことを知れるので良いと思います
- ・必要だと思う。



# 城北児童会館伝承遊び継承事業

## ◆目的

伝統遊具（竹とんぼ、けん玉、こま回し等）の製作や遊びを通して子どもたちに伝承遊びを親しんでもらうとともに、集中力や探求心の育成を図り、製作の楽しさ、それを使って遊ぶ喜びを体験してもらう。

## ◆連携している部局等

北陸学院大学 教育学部 幼児教育学科  
金沢市 子育て支援課（城北児童会館）

## ◆令和6年度の実施

伝承遊び等を4回実施

- 【日時等】 令和6年7月7日 牛乳パック自動車製作（参加者15名、学生2名）  
9月1日 運動あそび（参加者4名、学生4名）  
10月6日 竹とんぼ製作（参加者13名、学生7名）  
令和7年2月2日 ぶんぶんゴマ製作（参加者16名、学生6名）

※いずれも日曜日（10:00～11:00）に実施

【参加者】 来館者（未就学児・小学生及び保護者）

【内容】 学生が直接子どもと接することで、子どもの遊びの力や自己の教える力を向上させるとともに、学生にも伝統遊具について知ってもらう機会とする。



## ◆今後の予定、方向性

令和7年度は、令和6年度と同様の活動を行うが、学生自らが企画・運営に積極的に携わる活動としたい。

# 城北児童会館伝承遊び継承事業

## 1. 目的:

伝統遊具(竹とんぼ、けん玉、こま回し等)の遊び・製作を行い、子どもたちに伝承遊びに親しんでもらうとともに、「遊び」から集中力や研究心の伸長をはかり、「製作」から作ることの楽しさ、作ったもので、遊ぶ喜びを経験してもらう。

2. 期間:平成 29(2017)年 10 月~現在に至る

3. 場所:金沢市立城北児童会館

4. 連携団体:福祉局こども未来部 子育て支援課 / 城北児童会館

## 5. 活動計画

- (1) 大学担当者と城北児童会館担当者との打合せを行い、年度の活動案を策定する。  
(※児童会館行事の「日曜ワクワク遊び塾」の一環として実施)
- (2) 大学担当者が講師の手配、講師との打合せ、段取りを行い、児童会館に伝達。イベント補助学生の募集と打合せ、準備(適宜)。
- (3) イベント実施
- (4) 反省会・次年度へ

## 6. 事業の経過

<今年度>

①6月下旬ボランティア募集

②第一回目(7月7日):参加学生2名、参加者15名、牛乳パック自動車づくりを行った。



③城北児童館との打ち合わせ（8月27日）：城北児童館の担当者と今後の企画について打ち合わせを行った。

④第二回目（9月1日）：参加学生4名、参加者4名、運動遊びを行った。



⑤第三回目（10月6日）：参加学生7名、参加者13名、竹とんぼづくりを行った。



⑥第四回目（2月2日）：参加学生6名、ぶんぶんゴマづくりを行う予定である。

今年度は、学生が主体的に活動することを目指して「伝統遊び継承事業」に携わった。学生が制作経験のある牛乳パック自動車づくりやぶんぶんゴマづくりは学生の企画で実施した。一方で、竹とんぼづくりは、伝統あそびの専門家の指導の下、子どもたちと一緒に竹とんぼをつくる経験ができ、伝承遊びへの理解を深めた。参加した子どもたちや保護者の方々は、昔のおもちゃに触れる機会が少なく、「はじめて竹とんぼをつくりました。回す方向が決まっていることも知りませんでした」との声が聞かれた。





## 学生の協力による「放課後子ども教室」充実事業

### 1. 目的：

子どもが喜ぶ企画の立案や、子どもと触れ合う機会を提供することで、学生の貴重な実習の機会とすることに加え、学生の企画や運営を参考にすることで、公民館において地域住民等が講師となつて行う「放課後子ども教室」事業の充実にもつなげる。

### 2. 連携団体：教育委員会 生涯学習部 生涯学習課/各公民館

### 3. 活動計画

- ①大学より、次年度の実施計画（対応可能曜日等）を生涯学習課に伝達。
- ②企画を希望される公民館からの回答内容を検討し、年度の実施計画を立案
- ③公民館と打合せを行い、活動の大枠を検討する。詳細は学生が創意工夫して準備。
- ④イベントの実施
- ⑤反省会

### 4. 事業の経過

- ・令和6年11月27日（水）三和公民館（15:00～17:30）

#### ほくりくがくいんのお兄さん・お姉さんと遊ぼう

令和元年度以来、コロナ後初の実施。「①的当て」「②ボウリング」「③輪投げ」「④魚釣り」「⑤ラッキーコイン」そして「⑥ビンゴゲーム」6つの遊びブースを設け、前半1年生、後半は2年生以上の児童が参加した。

会場：三和公民館 参加児童：三和小学校区児童 70名程度 本学学生スタッフ：11名（4年次小中高教員志望学生有志）



・令和6年12月14日（土） 米泉公民館（13：30～16：00）

「あそ VIVA☆クリスマス in 米泉 2024」

7年目の開催。今年度は4つ+1のブースを設け、児童は町会毎に時間を区切って会場を訪れて遊びを楽しんだ。子ども会のプレゼントと併せ実施

「①宝探し」「②的当て」「③魚釣り」「④輪投げ」の4つのブース+全クリアプレゼントブースを運営した。

会場： 米泉小学校体育館

参加児童： 米泉小学校区児童 約200名程度（米泉子ども会共催）

本学学生スタッフ： 23名（1年次「キャリアデザインⅡ」受講生）



# 子ども読書推進事業

## ◆目的

図書館へ来館する子どもたちや親子を対象に、学生による絵本の読み聞かせや遊びを通じて、図書館に親しみ、読書にふれあう機会を提供するとともに、図書館事業に携わる学生ボランティアの育成や活動を支援する。

## ◆連携している部局等

北陸学院大学人間総合学部子ども教育学科（4年生）、教育学部（3年生以下）  
金沢市教育委員会生涯学習部図書館総務課

## ◆令和6年度の取組

### 【体験イベント】

・「親子であそぼう！～絵本のせかいへようこそ～ in 玉川こども図書館」

日時 2024年11月10日（日）10:00～15:00

場所 金沢市立玉川こども図書館

従事学生 4年生 28人

### 学生による報告

私たちは、3グループに分かれて、秋を感じられる絵本や秋から冬の季節の移り変わりを感じられる絵本を題材にした遊びを考え、企画し、親子で楽しめるイベントを開催しました。当日は、想像していたよりも来場者が少なく、イベントの準備として、上手く広報できなかったことを実感しましたが、私たち学生が多く時間をかけて考えたイベントを親子が笑顔で楽しんでくれたため、達成感と満足感を感じることができました。以下に、その活動報告をいたします。

### 〈各グループの学びと感想〉

#### 【きのみケーキ～もりのパーティーへご招待～】

私たちは、この活動における目的を達成するために、まずは、自分たちが楽しんだり、わくわくしたり、やりたい！と思えるもの考えることを確

認しました。それは、子どもも大人も感じ方は同様であり、自分たちが楽しめないものを用意しても意味がないということを目ごろの学びから感じ取っていたからです。そのため多くの人のウキウキワクワクを取り入れようと、できるだけ日程を合わせ、全員で集まって目的に沿った活動になっているかを確認しながら作業を行いました。一人ひとりできることや得意なことは違うため、自分ができることを自分なりに考えて全員が動いていました。直接会って一緒に作業を行うことで、進捗状況の把握がスムーズに行え、連帯感が生まれたと感じています。時には上手くいかないことや、予定通りに進まないこと、メンバー内で気持ちがすれ違うこともありましたが、「子どもたちに楽しんでほしい」「遊びを通して秋を感じ、様々な経験をしてほしい」という想いは同じだったため、試行錯誤を重ね、団結して取り組むことができました。

また、イベントで使用するものには、細部にまでこだわりをもち、カゴの素材を木をイメージして茶色の紙にしたり、パーティー会場の壁面やケーキのトッピングに本物の落ち葉やどんぐりを使ったりなど、絵本の世界観を再現することを意識し、最後までこだわり抜きました。

当日は、子どもたちがカゴいっぱい落ち葉を拾う場面や、ホイップにみたくて粘土を絞っている姿を見ることができました。来てくれた子ども一人一人が、自分で拾った落ち葉やどんぐりに触れながらケーキを作っていく中で、秋を感じてもらえたのではないかと思います。また、子ども達だけでなく、親御さんから会場に入るなり「すごい！かわいい！楽しい！」という声や「家庭ではこのようなことはできないからうれしい」という声をいただき、普段の生活の中ではできない遊びを提供できたことに喜びを感じました。さらに、午前の部で話し合った反省を踏まえ、午後には合間時間に必要なものを作成し、一人一人が周りを見て、自分の係以外の役割を担うなど、今までの学びを活かしながら臨機応変に対応する力を発揮することができたと感じています。

この活動が始まり、私たちはグループ内で話し合いを重ねてきました。こうしたらもっと良くなるのではないかと、環境構成では、部屋の大きさや子どもたちの動線を考えて検討することができました。この活動を通して自分の強みや弱みを見つめ直し、また強みは伸ばし弱みは強化していけるような時間になったと感じています。





### 【ふゆじたくのおみせへようこそ】

私たちは、絵本「ふゆじたくのおみせ」のお話に合わせた世界を作りました。まず、どんぐりを集めてお店でお洋服と飾りを買ってもらい、次に自分だけのお洋服を着てふゆじたくをしてもらい、最後は冬の世界に入ってもらいました。秋を感じながら絵本に出てくるお店や動物たちをすることで、絵本の世界観が味わえるような環境の設定を工夫しました。

当日は、どんぐりの数を保護者と一緒に数えながら買い物をする姿や、自分で作った帽子やベストを着て保護者に嬉しそうに見せながら、冬の世界を「冷たい！」と楽しみながら帰っていく親子の姿が見られました。

午前の部では、予想以上に来場者が多かったため、前もって決めていた役割では活動がうまく回らず、その場で逐一確認しながら臨機応変に対応しました。このことから、イベントにおいては、自分で作って持って帰れるということが親子にとって、(特に、子どもにとって)重視される点であると気づきました。午後の部では、午前中の親子の姿から気付きをいただき、保護者が子どもを近くで見守ってくれることから、役割を変更したり、声掛けを意識したりして行いました。メンバー同士で改善点を報告し合い、臨機応変に対応し、親子が楽しんでもらえるような活動ができたと感じました。

活動を通して、報告・連絡・相談の大切さを学びました。また、親子が絵本の世界を楽しめるような環境設定をする際、メンバーで何度も話し合い、変更しながら作り上げることで、協調性と達成感を感じることができました。子どもの様子を見ながら臨機応変に対応することが大切だということも学びました。この活動は、各自の課題や強みを見つめ直すことができる良い経験でした。



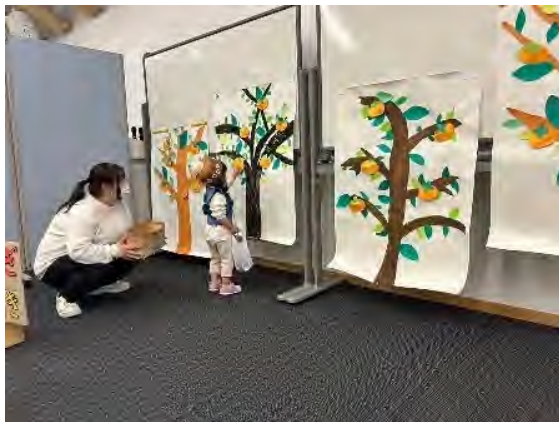


### 【つみつみでんしゃ】

私たちは、絵本『つみつみでんしゃ』をもとに、親子で電車になりきり線路を進み、各駅でミッションをクリアすると、スタンプがもらえるスタンプラリーを行いました。この活動で特に意識した点は親子で共に体を動かして楽しめるということでした。当日は、「出発進行！」と声を出して進んだり、少し背伸びをして柿を取ったり、手や足を使って栗を探したり、どのキノコにしようかと選んでいたり、少し暗いトンネルに勇気を持って入ってみたりなど、子どもが思いきり楽しんでいる姿やその様子を見て笑顔になっている保護者を見ることができて嬉しく思い、達成感を感じました。

午前の反省をもとに、午後からは活動を改善しました。改善点は次の通りであり、子どもの年齢幅が広がったため、きのこブースでは子どもに合わせて遊び方を伝えられるように「好きなきのこを選ぶ」遊びと「丸印が書いてあるきのこを探す」遊びの2種類用意しました。また、遊んでいる兄弟を待つ子どもに対して、クイズを出せるように準備しておき、子どもと一緒に答えを考えるなどしました。一人一人の遊びのペースや時間を保障するなど、学生が目の前の子どものに合わせて臨機応変に対応できたと思います。

イベントの準備から当日まで、グループの中でブースごとに役割分担をしたことで、各々が責任感を持って取り組みました。困ったことがあっても、他のブースのメンバーと相談したり、手伝い合ったりしました。初めは、グループのメンバーがお互いのことをよく知っている訳ではありませんでしたが、子どもが楽しく・安全に活動できるように協議する中で、メンバーの考え方を知ることができ、メンバーから学ぶことが多々ありました。また、1人ひとりの考えから良いものを1つ選ぶのではなく、良いところを合わせてグループとしての最善案を作り出す大切さを学ぶことができました。



〈活動を通して〉

今回の活動は、親子向けイベントの企画・運営を通して保育者としての自身の強みや課題を伸ばすことが目的であったため、お互いのことをよく知らない者同士がグループとなり取り組みました。そのため、準備の段階では、互いに探り探りで、活動における話し合いでは、うまく自分の思いや考えを出せない人が多かったように思います。しかし、活動内容を考え、イベント準備を進めるうちに、だんだんと打ち解け、どうやったら子どもたちに絵本の世界を楽しんでもらえるか意見を出し合いながら作業を進めることができました。また、授業内で事前に実践をし、他のグループに活動を体験する視点と第三者から見る視点の2つの視点からの意見をもらい、グループ内で話しあって改善し、活動をさらによりよいものにできたと感じます。このことから、子どもたちも私たち同様に互いを知り合い、そこから自己の表現を見つけていくのではないかと自らの体験をもとに考えることができました。また、子ども達の学びや気づきを支える保育者とは、「いいね」「すごいね」と声をかける存在ではなく、子どもたちの姿を多角的に捉え、必要に応じて教育的に言葉をかける存在であると考えました。

イベントの広報については、当日、想像よりも来場者が少なかったことから、広報活動の重要性を感じました。できることとして、学生がチラシを1人1保育施設に持っていったり、親子の目に触れる場所で宣伝したり、一人一人できることを考え、もっと広報に力を入れるべきだったと反省しましたが、その反省から私たち学生は、来てくださった方がより絵本の世界を楽しめるように積極的に子どもたちと関わり、声掛けを工夫していくことができました。また、午前の部での反省点を活かし、午後に来て下さるお子さんの年齢等を考えながら、環境構成や声掛けを改善し、臨機応変に対応することができました。大きなトラブルもなく、子どもや保護者の方、学生が楽しんで活動できたのは、この振り返り作業があったからであると感じています。

開催日時については、イベントが多い秋ということで、他のイベントとかなさってしまったことにより、来場者が少なかったことが考えられます。しかし、今回玉川こども図書館近辺のこども園の保育参加と重なっていたことにより、そのまま立ち寄って下さった方もいたため、さまざまなことに考慮する必要があることを学びました。

最後になりますが、今回の活動を通して、グループ活動での難しさだけでなく、組織人として対応することの難しさを実感しました。特に報告・連絡・相談の大切さを学んだと思います。リーダー、サブリーダー、会計、書記、運搬、フォローと全員に役割があり、役割ごとに連絡を取り合い、全員が責任を持って行動したいという気持ちはありながらも全員がそれが十分にできたわけではなく、時には、情報共有や確認ができておらず、うまくいかないこともあり、役割同士での話し合いが重要だと気づくことができました。このような経験から、改めて対話の大切さを実感しました。今後は、タイムリーに情報を共有することを徹底すること、各自が出来事に能動的に関わり、確認を怠らないようにしていきたいと考えます。また、保育士を目指す上で、自分の強みや弱みを見つめ直すことができ、貴重な経験になったと思います。今回、学んだことをこれからの大学生活や保育士となる上で活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

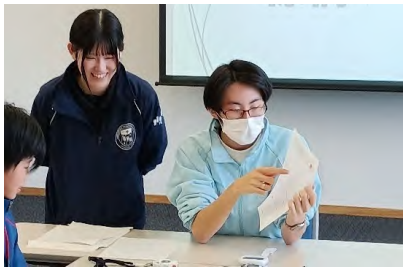
・「ビブリオトーク～本の魅力を再発見～」

日時 2024年11月24日（日）13:30～15:45

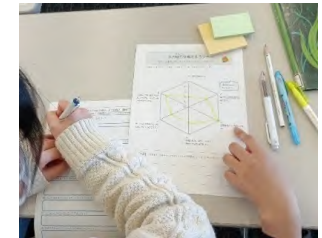
場所 金沢市立玉川こども図書館

従事学生 3年生4名 2年生1名

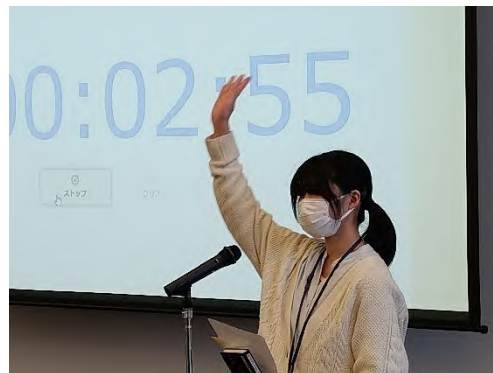
ゼミにおける研究活動の一環として、図書館との共催により読書推進活動に取り組みました。「ビブリオトーク」



は、一般的な「ビブリオバトル」をアレンジした研究室オリジナルの活動です。まず、トーク者は「読書の魅力チャート」を記入して本の魅力について考えます。次に、チャートの結果を踏まえ、学生スタッフと話し合いながら本の魅力を伝えるための原稿を作り、トークで伝え合います。今回そこで推薦されたのは、小説、絵本、詩集、郷土本と複数のジャンルにわたりました。また活発な質疑もなされ、和気あいあいとした雰囲気の中でとても盛り上がりました。



トークがすべて終わった後、観覧者によりチャンプ本が決まりました。当日、参加者してくれたのは全体で、トーク者4名（小学生1名、大学生4名）、観覧者8名（小学生2名、中学生2名、大学生2名、一般2名）の合計12名でした。参加者の感想として、チャンプ本に選ばれた小学5年生のTさんは、「他の人に伝えると思って言葉にすることで自分も本の魅力を再発見できました。他の方も、感じたことを一緒に紹介してくれたのでどんな本かわかりやすかったです」や、観覧者のMさん



（中学3年生）は、「学校で開かれるイベントはつまないって思っちゃうけど、いろんな年齢の方々が本を紹介してくださって、自分を考えるきっかけになりました。今度はトーク者にチャレンジしてみたい」など、「伝え合



う」ことの良さを語ってくれました。一方観覧者のNさん（小学4年生）は、早速、推薦本の詩集を図書館で借りて帰りました。今後も地域との連携を通して、実践的に子ども達の読書力向上へ向けゼミ活動に取り組んでいきます。



## ② 金沢学生のまち市民交流館運営事業

- 目的 学生と市民が交流し、まちづくりについて学び、成長し、まちなにぎわいと活力を創出する活動の拠点として設置
- 特色 金沢市指定保存建造物の金澤町家の外観、内装を昔の雰囲気を残しつつ改修し、また市内旧料亭大広間の部材を移築するなど金沢の歴史建造物のストックを活かしながら、学生と市民の交流、まちづくり活動の場として再生
- 所在地 金沢市片町2丁目5番17号
- 運営 金沢学生のまち市民交流館運営会議（金沢市と協働で運営を図る組織）  
構成：学生、地域住民、市民団体、高等教育機関等  
開館時間 — 休館日 午前10時～午後10時まで、月曜（休日のときは直後の平日）  
ゼミ、授業等で活用できる部屋（収容人数） 和室四部屋（6～15名）、土蔵（20名）、交流ホール（130名）  
（学生、高等教育機関、地域団体、まちづくり活動団体は無料で利用可能）  
申請受付 — 学生と高等教育機関は3か月前、それ以外は2か月前から（学生の利用を優遇）

### ○開館から令和6年1月末までの利用状況

学生	一般	小計	来館者	計
83,539名	65,945名	149,484名	403,633名	553,117名

### ○うち令和6年度（4～1月末まで）の利用状況

学生	一般	小計	来館者	計
5,392名	4,007名	9,399名	28,149名	37,548名

## ③ 学生等雪かきボランティア事業

- 目的 高齢化が進む地域の除雪の支援を行うとともに、学生等の社会参加の促進、世代間交流によるコミュニティの活性化を図る
- 実績 【協定締結数・活動実績数（全体）】

年度	協定締結数	活動回数	活動人数
R4	21組	8回	141名
R5	23組	4回	73名
R6	22組	13回	200名

### 【令和6年度協定締結団体（北陸学院大学関係分）】

受け入れ先地域	学生等グループ
十一屋校下町会連合会	北陸学院大学 よりそいの花プロジェクト(H24～)



協定式の様子

## その他

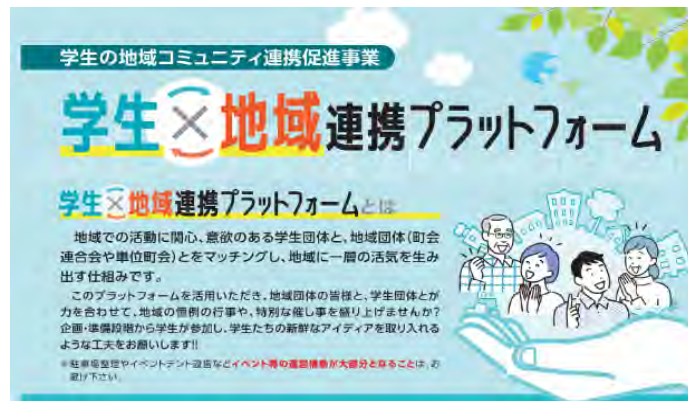
### □ 「協働のまちづくりチャレンジ事業」

学生の自主的なまちづくり企画を公募、採択。学生ならではの地域に根差した活動を行政が支援し、年間を通じて市と協働、連携した事業を実施することで、金沢市での社会貢献・まちづくりの経験を推進。



### □ 「学生の地域コミュニティ連携促進事業」

町会活動等における担い手支援として学生団体を派遣、学生の地域活動への参加を促進することにより、地域と学生とのつながりを創出するとともに、地域活動の持続可能性、学生の地域コミュニティに対する意識を醸成。





## 学生のまち推進事業（雪かきボランティア協定）

### 1.目的

高齢化などの課題を抱えるまちなか地域の雪かきの支援を通じて、地域参加の促進や地域コミュニティの活性化を図ること

### 2.期間

2024.12.2~2025.2.28

### 3.場所

十一屋連合町会

### 4.事業の経過

登録学生 17 名

地域からの除雪要請:なし（2月27日時点）

### 5.補足

十一屋校下町会連合会区域内からの除雪の相談は現時点ではないものの、活動期間の2月末までに町会からの要請があれば、関係者と相談の上必要な地点での支援活動に従事する予定である。

# 金沢のヘルシーお魚レシピ開発事業

## ◆目的

ライフスタイルの変化や食の簡便化により、調理に手間がかかる魚は敬遠され、消費は年々減少している。水産関係者にとって、この「魚離れ」が深刻な課題となっていることから、魚が持つ健康面に着目し、簡単に調理できるレシピを栄養学を学ぶ学生に提案してもらい、市が情報発信していくことで、家庭での魚食普及を図っていく。

## ◆連携している部局等

北陸学院大学	健康科学部栄養学科（担当：新澤祥恵教授、田中弘美教授）
金沢学院大学	人間健康学部健康栄養学科
金沢学院短期大学	食物栄養学科
金沢市	農林水産局農業水産振興課

## ◆令和6年度の取組（現在継続中）

- 5月 第1回検討会（5/21）※3大学の担当教授と事業の進め方を検討
  - ・テーマ「時短お魚レシピ」
  - ・授業の課題として取り組み、各大学で10品程度を選出
  - ・第2回（9月下旬）に合同で審査し、各大学から3品程度に絞り10～11品のレシピを選定
  - ・最終レシピは、パンフレットやクックパッドに掲載
- 7月 レシピ作成に向けたお魚マイスターによる講義（7/5）
- 9月 第2回検討会（9/26）
  - ・代表レシピの選定
- 12月 レシピ作成、作品撮影（12/13）
- 1月 発表会準備。
- 2月 データ送付予定。  
お魚レシピ発表会（2/16）

## ◆学生の学びと方向性

昨年度に引き続き、市民対象に発表会を企画し、意見交換を予定している。学生は、レシピ考案から、リーフレット作成を手掛け、プレゼンテーションも準備して実際に試食してもらい感想を聞くことといった一連の流れを経験することは、大きな学びとなり、他大学との交流にもつながるものである。



## エコ・スイーツ発信事業

### ◆目的

家庭で捨てられがちな食材を活用したエコ・スイーツレシピコンテスト（令和4、5年度実施）の未受賞作品レシピについて、学生目線でよりおいしく、簡単に調理しやすいものにアレンジし、レシピ動画を SNS 等で発信することで、市民のごみ減量意識の向上を図る。

### ◆連携している部局等

北陸学院大学 健康科学部 栄養学科

Finding ゴミ（金沢大学環境活動サークル）

金沢市 ごみ減量推進課

### ◆令和6年度の取組

#### ①アレンジレシピ考案・試食

概 要：学生が未受賞作品レシピ（73 作品）の中から、簡単に組み立てられ、食べてみたいと思うレシピを選考し、それらを北陸学院大学の学生が簡単に組み立てるレシピに作り変え、試食を実施

試 食：令和6年8月19日（月）13:00～14:00、北陸学院大学内調理室

結 果：学生の視点で、ごみの減量に繋がり、かつ、おいしいと思った8作品について発信していくことに決定

#### ②レシピ動画制作・発信

概 要：北陸学院大学の学生が撮影・編集したレシピ動画を SNS 等で発信

制作期間：10～11月

投 稿 日：令和6年10月23日（水）から令和7年2月5日（水）まで隔週で順次発信

発信媒体：ごみ減量推進課公式 Instagram、公式 X、金沢市公式 YouTube チャンネル

※Instagram は北陸学院大学、Finding ゴミのアカウントと共同投稿

## 【試食の様子】



## 【完成したエコ・スイーツ】



まるごとかぼちゃのパウンドケーキ



金時草の茹で汁でわらび餅



なすパイ



カボチャ入りマッシュマロプリン



人参とオレンジのクッキー



まるごとクッキーウイ



コーヒーの出瀬らして作る  
ヨーグルトティラミス



かりかりそうめんドーナツ

(写真撮影：北陸学院大学健康科学部栄養学科)

## ◆今後の予定、方向性

- ・市環境イベントでレシピ動画を放映するなど、エコ・スイーツレシピを周知し、食品ロスの削減や生ごみの減量化を啓発
- ・令和7年度は、残りの未受賞作品を活用し、「応用編」として、ひと手間かけたよりおいしいレシピに作り変え、SNS 等でレシピ動画を発信（予定）

## 続 エコ・スイーツ発信事業

### ◆目的

ごみ減量につながるエコクッキングをさらに促進するため、テーマをスイーツに絞り事業を行う。支出金額が全国1位であるお菓子やスイーツをテーマにすることで、取り組みへの意欲向上を図る。

令和4年度・令和5年度エコスイーツレシピコンテストで募ったレシピ（計83作品）のうち、受賞作品以外の優れたレシピ（計73作品）を柔軟な視点を持った学生が簡単に取り組めるようなレシピに作り替え、レシピ動画をSNS、Youtubeで配信することにより、幅広い層にアピールし、ごみの減量を図る。

### ◆連携している部局等

北陸学院大学健康科学部 栄養学科 俵ゼミ、スイーツ研究所、ミッション食育グループ

（担当：俵 万里子 講師、長岡 花恵 助手）

金沢大学 学生団体 Finding ゴミ

金沢市環境局ごみ減量推進課

### ◆令和6年度の取組

5月 レシピ選考

選考委員の学生が73作品の中から、1人3作品を選出

<選考委員>

・北陸学院大学 俵ゼミ3名、スイーツ研究所7名

・金沢大学 Finding ゴミ8名

<選考基準>

・学生が食べたいと思うレシピ

・簡単に取り組みそうなレシピ



6、7月アレンジレシピ考案・試作

選出された作品から10作品を選出し「誰でも取り組みやすいレシピ」に  
アレンジした

<レシピ考案>

・北陸学院大学 俵ゼミ3名

8月 アレンジレシピ試食(8/19)

アレンジレシピ10レシピを試食し、8レシピが採用となった

<確認要員>

・北陸学院大学(俵ゼミ学生3名、講師1名、助手1名)

・金沢大学学生(Finding ゴミ2名)

10、11月 レシピ動画制作

・1日2レシピ、計8レシピを撮影(撮影日:10/2、10/16、10/30、11/13)

<作成要員>

・調理・・・北陸学院大学 俵ゼミ3名

・撮影・作成・・・北陸学院大学 ミッション食育グループ8名

10~2月 レシピ動画発信(2週間ごとに投稿)

<投稿日>

10/23 (水) まるごとかぼちゃのパウンドケーキ

11/6 (水) 金時草の茹で汁でわらび餅

11/20 (水) ないすパイ

12/4 (水) カボチャ入りマッシュマロプリン

12/18 (水) 人参とオレンジのクッキー

1/8 (水) まるごとクッキーウイ

1/22 (水) コーヒーの出廻らしで作るヨーグルトティラミス

2/5 (水) かりかりそうめんどーナツ

<公開先>

ごみ減量推進課公式 Instagram・X、金沢市 HP・YouTube

大学の Instagram アカウントと共同投稿を実施

投稿記事は、大学生が考えた内容とした。

2月 デジタルレシピ集発信

<公開先>

市公式 LINE、市公式 Facebook

◆今後の予定、方向性

次年度は「エコ・スイーツチャレンジ 応用編」として、令和4・5年度に開催したエコ・スイーツレシピコンテストで募った作品の内、受賞作品10作品、令和6年度初級編8作品を除く65作品の中から学生が選定を行い、「簡単かつごみ減量につながるレシピ」にアレンジ、動画作成を行う。

令和6年度と同様、市HP（YouTube）やLINE、SNS等でのレシピ動画の発信を通して

さらに幅広い層にアプローチし、ごみ減量への関心を高めていきたい。

# 金沢マラソン組織委員会との連携事業

## 1. 目的

6 大学\*による金沢マラソン 2024 調査研究に関連して、障害のあるランナーのサポート、および参加に際しての特徴やニーズの調査を行う。

\*金沢大学、金沢学院大学、金沢工業大学、金沢星稜大学、北陸大学、北陸学院大学

## 2. 本学の取り組み内容

- ・金沢マラソン 2024 当日（10 月 27 日）、フィニッシュ会場での障害のあるランナーのサポート（写真）と、障害ランナー（一部伴走者を含む）を対象とした調査票配布（現地で直接配布し、郵送で回収）、学生 7 人参加
- ・2025.3.22（土）大学連携成果発表会（金沢学生のまち市民交流館）

## 3. 取り組みと調査結果のまとめ（本学分）、今後に向けて

全体で約 1 万 5 千人のうち障害のあるランナーは 114（申し込み段階）で、その障害種別は肢体不自由、視覚、言語聴覚、内部、精神、知的と多様で、だれもが参加できる金沢マラソンの特徴の一つになっている。参加理由については、2024 年大会もこれまでと同様に、「障害者優先枠がある」が最も多かった。県外在住者が多かった。

2017 年大会でのニーズ調査をもとにしたフィニッシュ会場の多目的スペースの評価は高く、「いろいろな大会に参加してきたが障害者に対する配慮が一番よかった」、「障害特性があるためゴール後の多目的スペースは本当に助かった」、「このような取り組みがあるならまた参加したい」、「来年以降も変わらず設置していただきたい」、「荷物の場所も工夫されていてよかった」「学生スタッフさんの案内、簡単な手話がうれしかった」といったコメントが調査票上に記載されていた。本取り組みの意義はあったと考える。

また、障害ランナーの表彰やゼッケンの色分けなどに対する意識では、障害別に異なる結果となった。

対象となるのは全体のごく一部ではあるが、さまざまな事情がある人たちに配慮した大会は、当地域で開催される（スポーツ）イベントの価値や魅力を高めることにもつながる。誰もが参加しやすい環境づくりのためにもサポートやニーズ調査等の継続、蓄積が必要となる。

